

## 中南米の鉄鋼産業再編成動向

内多 允 Makoto Uchida

名古屋文理大学 教授

(財)国際貿易投資研究所 客員研究員

世界の鉄鋼産業界では、国境を越えた企業合併が展開されている。その影響は中南米にも及んでいる。06年には2大鉄鋼メーカーであるアルセロールとミタルが合併した。この世界最大の鉄鋼メーカーであるアルセロール・ミタルの誕生を契機に、中南米の有力な鉄鋼メーカーもM&Aなどによって、企業規模を拡大して国際競争を強化しようとしている。本稿では外資系鉄鋼メーカーの中南米への進出の具体例としてアルセロール・ミタルの動向を、そして現地資本の鉄鋼メーカーが地域内多国籍企業として発展を目指している例として、GerdauとTechintoの最近の動向を取り上げる。

世界の鉄鋼業界が中南米で最も注目している国はブラジルである。国際鉄鋼協会(IISI)のデータ(07年1月22日発表)によれば、06年における世界の粗鋼生産量は12億3,950万トンで、ブラジルの生産量(表1)はその2.5%を占め、世界の国別順位では10位となっている。

同国は中南米最大の鉄鋼生産国である(表1)。同表によれば中南米8カ国の生産量合計6,200万トンの約

表1 中南米各国の粗鋼生産量  
(2006年)

国名	生産量 (100万トン)
ブラジル	30.9
メキシコ	16.3
アルゼンチン	5.5
ベネズエラ	4.9
チリ	1.6
コロンビア	1.2
ペルー	0.9
トリニダード・トバゴ	0.7
以上合計	62.0

(出所) 国際鉄鋼協会(IISI)統計より作成

50% (3,090 万トン)が、ブラジルで生産された。これに次ぐ生産規模がメキシコの 1,630 万トンである。これら両国を除く中南米各国の粗鋼年産量は、1,000 万トン以下の規模に止まっている。

ブラジルが鉄鋼メーカーにとって有利な立地条件を形成している理由としては、製造業が発展していることと、原料の鉄鉱石資源に恵まれていることがあげられる。メキシコもブラジルと並んで中南米を代表する工業国であることが、鉄鋼産業の発

展を促した。中南米の鉄鋼産業が発展する要因としては、米国への輸出拠点であることも無視できない。米国の鉄鋼貿易は入超傾向が続いており、国内消費量に対する輸入比率は、05 年で 23.7%となっている(表 2)。米国は中南米の鉄鋼メーカーにとって重要な市場である。従って、後に記すように中南米の主要な鉄鋼メーカーは、米国企業を対象とする M&A によって米国内に生産拠点を確保している。

表 2 米国における鋼材市場

項目	2001 年	2005 年
事業所数	820	800
従業員数 (千人)	185.0	150.0
設備稼働率 (%)	79	80
米国内出荷額 (百万ドル)	51,100	85,000
輸出額 (同上)	4,756	9,331
輸入額 (同上)	11,630	23,534
米国内見掛消費額 (同上)	57,974	99,203
輸出入収支 (同上)	△6,874	△14,203
輸入比率 (%)	20.1	23.7
輸出比率 (同上)	9.3	11.0

(注) 米国内見掛消費量 = 米国内出荷額 - 輸出額 + 輸入額。  
 輸入比率は輸入額の米国内見掛消費量に対する比率。  
 輸出比率は輸出額の米国内出荷額に対する比率。

(出所) United States International Trade Commission,  
 Shifts in U.S. Merchandise Trade 2005  
 (商品分類コード MM025 Steel mill products)

## 「ブラジルを目指す大手企業」

世界の鉄鋼業界では 06 年にミタルのアルセロール買収の合意が成立して、アルセロール・ミタルという巨大鉄鋼メーカーが発足したことによって、この巨大企業に対抗して生き残るためのさまざまな M&A の動きが、国境を越えて展開されている。合併前における両社の粗鋼年間生産量(05 年)はミタルが 6,300 万トン、アルセロールが 4,670 万トンである。これを合計すると 1 億 970 万トンとなり、05 年における世界の粗鋼生産量合計 11 億 3,180 万トンの 9.7% を占めている(ちなみに同年の企業別粗鋼年産量統計によれば新日本製鐵が 3,200 万トンで第 3 位となっている)(以上のデータ出所は表 1 と同じ)。アルセロール・ミタルのブラジルにおける基盤は、アルセロール・ブラジル(Arcelor Brasil)によって形成されていた。同社は 05 年 12 月末に関係企業 3 社の支配会社に再組織された。この統合対象となった 3 社は、Belgo とツパロン製鉄所(CST)、Vega do Sur である。これら 3 社に Belgo 系列のアルゼンチンの Acindar

を加えると、アルセロール・ブラジルの粗鋼年産能力は 1,100 万トンとなった。これは前記アルセロール・ミタル合計の約 10% に相当する。アルセロール・ブラジルはミタルとの合併前から既にブラジルや中南米地域での投資拡大を計画していた。これについての報道によれば、同社はブラジル・ヴィトリア州で年産能力 400 万トンの高炉建設を計画している。CST へは 25 億ドルを投資して年産能力を現行の 500 万トンから 700 万トンに引き上げることにしている。中南米へ今後 6 年間で 60 億ドルを投入して、グループ企業全体の年産能力(1,100 万トン)を 2,000 万トンに引き上げることも計画している。

アルセロール・ミタルグループの中核企業は CST である。同社の主要な生産品は平板炭素鋼である。また、07 年第一四半期に稼動を予定している高炉を建設中で、これにより年産 250 万トンのスラブ(粗鋼半製品)を生産する。Vega do Sul は冷間圧延や亜鉛メッキ生産を主要業務としており、ブラジルの自動車メーカーや家庭用品メーカーを主な納入先としている。Belgo は中南米最大の棒材

炭素鋼メーカーで、土木・建築用の圧延鋼材やロッド、延伸ワイヤーが主な生産品である。

以上のアルセロール・ブラジルによる経営統合とは別に、05年10月にアルセロールはブラジルのステンレス鋼メーカーである Acesita 社の経営権を確保した。これはアルセロールが同社の議決権付普通株式の76%、また総資本の40%を支配する株主となった結果である。

Acesita は世界で最も高い利益率を維持して競争力に富むステンレス鋼メーカーとして評価されている。アルセロールは Acesita の経営権を得たことによって、ブラジルで高品質で価格競争力のある鉄鋼製品の生産拠点を築くことができるようになった。

鉄鋼生産は賃金や原料等のコストが、途上国の方が先進国よりも有利な競争条件を具えていることを反映して、先進国の鉄鋼メーカーは開発途上国での生産に関心を高めている。合併前のミタルは開発途上国での生産を拡大してきたが、ブラジルでの生産は手がけていなかった。アルセロールとの合併によって、一挙に中

南米最大の生産拠点を手中に収めたことになる。

ブラジル開発銀行(略称 BNDES、国営銀行)の調査(06年9月25日発表)によれば、鉄鋼産業への投資額は01年から05年においては195億ドルであったが、07年から11年の期間は464億レアルに上ると予想している。同期間における BNDES の鉄鋼産業への融資額も48億レアルから167億レアルへの増大を見込んでいる。このような投資拡大によって、ブラジルの粗鋼年産能力は3,600万トンから7,200万トンに倍増する。

ブラジルが鉄鉱石の供給国であることも、世界の鉄鋼産業界に再編成を促す影響力を与えていることが指摘されている。ブラジルのリオドセ(CVRD)は世界の主要な鉄鋼メーカーに鉄鉱石やペレットを納入している。リオドセが鉄鉱石の国際相場の動向に与える影響力は大きい。リオドセからの鉄鉱石購入価格を決定するための交渉を有利にするためにも、鉄鋼メーカーの企業規模を拡大することが求められているとも言われている。

リオドセの収益構造は鉄鉱石が主

な収益源となっている。最近(06年9カ月の収益128億6,900万ドル)の57.3%が鉄鉱石、ペレット11.2%で占められた。市場別の比率ではブラジルが23.8%で、残りは海外である。

リオドセの強みはブラジル国内に豊富な鉄鉱石鉱山を保有していることである。また、ブラジルにおける鉄鋼メーカーの原料事情については有利な立地条件を形成して、海外からの鉄鋼メーカーの投資を促す結果を生み出している。リオドセの供給方針は、世界の鉄鋼価格形成に影響する。

リオドセは金属鉱山会社に加えて、鉄鋼関連メーカーの株式も保有している。しかもその保有状況は、議決権株式の50%以上を保有している。ペレット生産企業については5社の議決権株式の50%(2社)と51%(3社)をそれぞれ保有している。鉄鋼メーカーの株式についてはブラジルの3社(議決権株式の持ち株比率は77.97%、22.99%、50.0%)と米国1社(同50.0%)、アルゼンチン1社(同4.85%)となっている(株式の持ち株比率は06年9月の現状に関するリオドセの発表による)。これらの投

資先にはブラジルの鉄鋼大手メーカーであるウジミナス(Usiminas)も含まれる。リオドセはウジミナスの議決権株式の22.99%を保有している。

日本の鉄鋼業界では新日本製鐵(株)(以下、新日鉄)が06年12月、ウジミナスおよびリオドセとの関係を強化する方針を打ち出した。新日鉄の発表(06年12月18日)によれば、同社とリオドセは戦略的提携合意書を締結した。その内容は両社による共同事業運営での協力や、新日鉄がリオドセからペレットを追加取引することの検討、石炭・鉄鉱石での新規共同開発案件を検討すること、合金鉄・輸送・研究開発における相互協力など広範囲にわたっている。巨大鉄鋼メーカーがこのような提携に踏み込ませることからも、リオドセが世界の鉄鋼産業界において重要な地位を占めていることをうかがわせる。新日鉄とリオドセはウジミナス社新株主間協定(06年11月6日締結)に参加した。ウジミナスは南米における大手鉄鋼メーカーである。新日鉄はウジミナスの大株主である日本ウジミナス(株)(以下、日ウ)の株式を追加取得した。新日鉄の発表(06年

12月21日)ではこの追加取得によって、新日鉄の出資比率は50.9%となり、日ウは新日鉄の連結子会社となった。日ウはウジミナスの議決権株式21.6%を保有していることに加えて、新日鉄が直接保有している1.7%を合わせると、ウジミナスは新日鉄の持分法適用会社となった。

ウジミナスは日本の技術協力を受けて発足し、粗鋼生産量は870万トン(05年)で世界29位で、特にブラジルにおける厚板市場をほぼ独占している。新日鉄はウジミナスと1999年に合弁企業ユニガル社を設立した。ユニガルは自動車用鋼板を生産している。ブラジルはメキシコと並んで中南米における自動車生産の拠点国になっているだけに、今後も鉄鋼需要の拡大が期待される。

### 「対米拠点を強化するメキシコ」

メキシコはNAFTA(北米自由貿易協定)域内の工業生産拠点として、米国市場への依存度が極めて高い。鉄鋼メーカーも米国市場を視野に入れた経営戦略が求められている。鉄鋼の需要先である米国の自動車産業の

重要な生産拠点としてメキシコを無視できない。メキシコの鉄鋼産業の拡大に向けて、積極的な投資を展開しているのがアルセロール・ミタル(以下AM)である。AMのメキシコ鉄鋼産業との関係は、1990年代に遡る。メキシコの主要な鉄鋼メーカーは国営企業が多かった。しかし、その後メキシコが1980年代に対外債務危機に陥ったことを契機に、他の国営企業と同様に民営化の道をたどった。国営鉄鋼企業として1971年に設立されたSICARTSAも91年に民営化された。民営化の方法は4社に分割して売却された。この内3社をまとめて、ビジャセロ・グループ(Grupo Villacero)が買収した。残り1社(Sibalsa製鉄所)をカリビアン・グループが買い取った。カリビアン・グループは当時トリニダード・トバゴの国営製鉄所も買収していた。同グループは現在のミタルの前身である。メキシコでは今日、Mittal Steel Lázaro Cárdenasと改称している。同社の05年における純売上高は15億5,100万ドルで、中南米500大企業順位表で205位である(出所Latin Trade 06年7月20日05年純売上高順位表)。

スラブの年間生産能力は約 380 万トンで、メキシコ最大のスラブ輸出メーカーである。

AM は 06 年 12 月 20 日、Sicartsa を Grupo Villacero から買収することで合意が成立したことを発表した。アルセロールとミタルの経営統合後、初めての M&A である。ビジャセロ・グループから同社株を 14 億 3,900 万ドルで 100% 買い取るようになった。Sicartsa の年間生産能力は 270 万トンである。AM は Sicartsa 買収のメリットとして、次の事項を指摘している。

先ず工場所在地が Mittal Steel Lázaro Cárdenas に隣接している。同社の年産能力は 400 万トンでメキシコ最大の鉄鋼メーカーであり、スラブの輸出企業である。これに隣接する同グループの Sicartsa の年産能力 270 万トン(但し、米国テキサス州の系列工場分を含む)を加えると、合計 670 万トンとなる相乗効果も期待されている。

Sicartsa は鉄鉱石鉱山も所有しており、その埋蔵量は 1 億 6,000 万トンと評価され、同社の現行生産状況では 30 年間の資源が確保されている計算になる。鉱山は工場から 26 キロメー

トルの場所に位置している。

AM はビジャセロ・グループと折半出資で、メキシコと米国南部を対象とする AM グループの鉄鋼製品の販売会社を設立する。ビジャセロ・グループの流通網を活用して、AM グループの販路を拡大しようとしている。AM では Mittal Steel Lázaro Cárdenas と Sicartsa を統合させれば、生産部門で 8,000 万ドル、販売と経営管理面で 5,000 万ドル、合計 1 億 3,000 万ドルの経費節減効果を試算している。AM ではメキシコにおける今後 10 年間の鉄鋼需要は、年率 10% の伸びが期待できると評価している。

#### 「加工品生産を重視する Gerdau」

ゲルダウ (Gerdau) の本社はブラジルに設置されているが、その工場は米州地域に分散している。ゲルダウが工場を操業している国はブラジル、アルゼンチン、ウルグアイ、チリ、ペルー、コロンビア、米国、カナダ、スペインの 9 カ国に広がっている。同社の粗鋼生産量(05 年 IISI データ)は 1,370 万トンで、この時点では中南米最大の鉄鋼メーカーである。同

社は北米や南米各国に工場を配置していることから、販路も広範囲に及んでいる(表 3)。同表によれば、ブラジルと並んで北米地域が主要な販売市場を形成している。05 年には北米がブラジルを上回る販売実績を上げている。同社のブラジル工場は 05 年に 630 万トンを販売した。その内訳はブラジル国内向けが 350 万トン、輸出が 280 万トンの構成となった。ゲルダウは現在、ブラジル国内では鉄筋の加工場を増設している。その数を 04 年の 20 から 05 年には 25 に増やし、06 年にはさらに 3 箇所を増設する。ゲルダウは需要の多い商品を短時間で納品する生産方式を重視している。このようなきめの細かい販売戦略を導入して、販路を拡大している。

表 3 Gerdaу の地域別販売量

(単位：千トン)

	04 年	05 年
ブラジル	6,630	6,328
北 米	5,411	6,421
南 米	520	802
合 計	12,561	13,551

(注) 北米はカナダと米国。南米はアルゼンチンとチリ、コロンビア、ウルグアイの合計。

(出所) Gerdaу Annual Report 2005

ゲルダウのブラジルからの輸出市場構成は、05 年においてはアジア向けが 44%を占めた。これに次いで南米 19%、中米 13%、ヨーロッパ 11%、アフリカ 8%、北米 5%の構成比率であった。北米の比率が低い原因としては、同社が米国やカナダで工場を操業していることも影響している。

ヨーロッパ市場では 05 年にスペインの Sidenor S. A.の株式 40%を取得した。Sidenor はスペインの主要な鋼板メーカーで、鋳鍛造分野では最大企業である。また同社は年産 190 万トンの鉄鋼生産能力を有しており、自動車産業向けの鉄鋼製品も生産している。

ゲルダウは鉄鋼製品の中でも、自動車産業向けの製品を重視している。05 年にゲルダウグループ全体の最終製品の生産能力を、従来の 40 万トンから 50 万トンに引き上げた。

同社は 07 年—09 年にかけての投資計画を 06 年 11 月に発表した。その投資額内訳は 07 年 14 億ドル、08 年 11 億ドル、09 年 15 億ドルで、これには企業買収のための資金投入は含まれていない。この投資で鉄鋼の生産能力を 2,160 万トン(12.5%



増)に引き上げる計画である。その内訳はブラジル国内で 14%増の 1,060 万トン、海外工場(米国等)で 10%増の 1,100 万トンを計画している。

同社はアジア、特に中国への進出を希望していることが報道されているが、その具体的な内容はまだ決定していない。ゲルダウは今後も現地の有力な企業の株式を取得して、需要拡大が有望視される商品を重点的に生産して、市場を確保して大手企業に対抗する戦略を展開していくだろう。

#### 「多様性に富む Techint グループ」

アルゼンチンのテチントグループは、鉄鋼部門に加えて石油・天然ガス採掘やエンジニアリング、建設、サービスなど多種多様な分野に進出している。テチントの粗鋼生産量は 870 万トン(05 年 IISI 統計)で中南米の鉄鋼メーカーではゲルダウに次ぐ生産規模である。テチントも各国の企業の経営権を M&A によって獲得してきた。中南米では、05 年に実施したメキシコの Hylsamex を対象とする M&A が大規模な投資として注

目された。その買収金額は 22 億 1,700 万ドルであった。その前にテチントはベネズエラの Sidor やアルゼンチンの Siderar を買収した。これらの鉄鋼メーカーはルクセンブルグに本社を置く系列企業の Ternium が支配している。テチントは資源開発に関わりの深い業種だけに、中南米ではベネズエラにおける事業展開の行方が注目される。チャベス・ベネズエラ大統領は民族主義的な観点から、自国資源の権利擁護と外資系企業の行動とは相容れないとの主張を打ち出す傾向が見られる。05 年にはテチントの前記 Sidor の経営に関して、チャベス・ベネズエラ大統領から批判される問題が持ち上がった。Sidor(オリノコ製鉄会社)は 1997 年に国営企業から民営化された。Sidor はテチントの系列に入ってから、原材料や半製品を輸出して完成品を輸入する操業形態を維持している。これに対して、チャベス大統領は Sidor は国内資源を活用して加工産業を育成すべきであるという観点から、従来の完成品輸入依存には批判的な見解を打ち出した。そして、Sidor がこれを改めなければ Sidor の

再国有化も辞さないという圧力をかけた。最終的にはベネズエラ政府とテチントグループとの交渉で、経営方針についての合意が成立した。

テチントが得意としている資源産業については、中南米地域で資源ナショナリズム的な政策を求める傾向も無視できないだけに、これに対処する経営方針が注目される。特にテ

チントが得意とするシームレスパイプは、メルコスル域内の天然ガスパイプ需要増大が期待される。しかし、これに関与するベネズエラやボリビアなどの有力な天然ガス輸出国の現政権は、いずれも資源国有化について積極的な国であるだけに、テチントのプロジェクトの運営方針にも何らかの影響が及ぶことも考えられる。

(参考) ブラジルからの輸入額と輸入シェアの推移 (鉄鉱石)

(100万米ドル、%)

順位	国名	対ブラジル輸入額		国別構成比		対ブラジル比		2005年増減率		
		2004	2005	2004	2005	2004	2005	世界	ブラジル	寄与度
参考	<i>Brazil (総輸出額)</i>	4,759	7,297	-	-	-	-	-	-	-
-	TOTAL	7,073	9,690	100.0	100.0	26.7	27.0	35.45	37.00	37.00
1	China	2,583	3,492	36.5	36.0	22.6	21.1	44.53	35.19	12.85
2	Japan	746	1,197	10.5	12.4	20.8	23.9	39.19	60.48	6.38
3	South Korea	446	656	6.3	6.8	35.9	37.8	39.99	47.31	2.98
4	Netherlands	535	620	7.6	6.4	53.9	49.2	26.78	15.88	1.20
5	Italy	427	591	6.0	6.1	63.7	63.3	39.13	38.33	2.32
6	France	389	477	5.5	4.9	63.5	62.8	23.71	22.52	1.24
7	Germany	378	409	5.3	4.2	23.7	22.0	16.67	8.10	0.43
8	Argentina	225	381	3.2	3.9	99.3	99.3	69.35	69.37	2.21
9	Taiwan	237	288	3.4	3.0	39.5	38.5	24.34	21.17	0.71
10	U.K.	111	246	1.6	2.5	21.2	32.7	43.65	121.48	1.91
11	Belgium	193	234	2.7	2.4	58.9	59.9	19.31	21.34	0.58
12	Spain	139	180	2.0	1.9	65.1	73.1	15.84	29.95	0.59
13	U.S.A.	140	178	2.0	1.8	38.0	33.6	43.53	27.01	0.54
14	Mexico	110	169	1.6	1.7	68.2	74.7	39.90	53.13	0.83
15	Romania	102	159	1.4	1.6	39.9	47.8	29.61	55.30	0.80

(注) 1. TOTAL: 主要52カ国・地域の合計

2. 対ブラジル比: 各国の総輸入額に占める対ブラジル輸入の割合(%)

3. 2005年のブラジルからの輸入額が1億ドル以上の国のみ掲載

(出所) 国際貿易投資研究所「ITI財別国際貿易マトリックス」(2006年版)データベースより作成